

令和2年度 学力向上指導改善プラン

三田市立八景中学校長 細見 和孝

学校教育目標		自立して目標や夢の実現に挑戦する生徒の育成 自立・夢・挑戦			
推進主体		校長、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、教育課程担当、図書館教育担当を中心として推進している。			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等					
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	算数		
		<ul style="list-style-type: none"> ○読書に関心を持つ生徒が多いことから、「読むこと」にとどまらず、「話すこと・聞くこと」の能力も、少しずつではあるが伸びている傾向がみられる。 ◆「書くこと」の領域においては、二極化の傾向がみられる。特に、自分の意見を具体的に書くということに課題がみられる。 ○言語についての知識・理解・技能については、おおむね定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な計算はよくできている。 ○比喩や一次関数には十分に慣れており、定着が見受けられる。しかし、反比例については、まだ不十分であり課題がある。 ◆数学的表現を用いて説明することに課題がある。 ◆資料の傾向を的確にらえ、表を読み取ることに課題がある。 		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ◆基礎基本の内容については概ね理解しているが、応用力を必要とし自分で論理的に考えて説明したりということに課題がみられる。 			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた学習態度で、真面目に取り組んでいる。ほとんどの生徒は課題に真剣に取り組むことができる。 ◆家庭での学習習慣が定着していない。日ごから予習、復習に意欲的に取り組めるように、工夫・改善を行う必要がある。 			
	学力向上生活学習に係る学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の規則をよく守り、家庭での基本的な生活習慣も身につけているという生徒が大多数を占めており、概ね良好である。 ◆家庭学習の時間確保とともに、計画を立てて取り組むことを習慣づける必要がある。 ◆失敗を恐れて挑戦を避け、将来の夢や目標を持っていない傾向がある。 ○困っている人がいれば助けたい、人の役に立ちたいという思いを持つ生徒が多い。 ◆読書への興味関心はあるが、それに費やす時間は少ない。 			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業中は、落ち着いた真面目な学習態度で取り組んでいる。しかし、日々の復習や予習といった家庭学習の習慣化について、今後も引き続き家庭への啓発や、小中で連携した家庭学習の定着への取り組みが必要である。 			
研修内の研究状況	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「生徒が主体的に取り組む学習指導」を実現させるために、めあてとふり返りを各教科で定着させ、学習指導の工夫、授業改善につながる学習指導について校内研究推進体制を整備した。 ○互見授業や研究授業を積極的に行うことで、教師が互いに学びあう体制築き、校内全体で授業改善に取り組んだ。 			
	校内研修の状況				
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆家庭学習の定着について、継続して家庭や地域への啓発を行う。学校と家庭・地域が協働して生徒を指導、支援するために地域の教育力を活用した取り組みを進める必要がある。 			
	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの連続性を大切にしたい取り組みを進めている。 ○出前授業に加え、新入生説明会の際に、小学6年生を対象とした体験授業を行った。 			
4月					
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
○すべての生徒に分かりやすい学習指導の工夫、授業改善		<ul style="list-style-type: none"> ○年間3回以上の研究授業・研究討議を実施する。 ○テーマを設定した互見授業を実施する。 ○ICT機器を活用した授業をすべての教科で年間2回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の授業において本時の「めあて」を明示するとともに、「振り返り」活動の充実を図る。 ○互見授業期間だけでなく、普段の授業参観も活用を行うことで、成長し続ける意欲を持った教師集団を作る。 ○生徒が主体となる授業づくりができるよう校内研修を充実させ、授業力の向上に向けた研究に取り組む。 ○学習理解を支援するICT機器を活用した授業実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業において「ねらい」を明確するとともに「振り返り」を行う授業スタイルが定着し、見直しをもって授業に取り組むことができている。 ○生徒が主体となる授業づくりを主眼に置いた互見授業を活性化できたことで、相互に高め合う機会を設けることができた。大人数による授業研究はできていないが、小グループに分けての授業研究・校内研修で、学習理解を支援するICT機器を活用した研修を行った。来年度も「わかるよるこび」を実感できる授業づくりのための研修を継続しつつ、iPadの有効活用についてもさらに研修を深めていきたい。 ○授業改善のための相互研修・自己研鑽を積極的に行うことができた。その結果が、学校評価アンケートの授業内容の項目において、生徒の高い肯定的評価に表れたと思われる。 	A
○家庭との連携による家庭学習の習慣化と生活習慣の改善		<ul style="list-style-type: none"> ○100%の生徒が、平日の家庭学習時間30分以上を達成する。 ○100%の生徒が、携帯・スマホ、ゲーム等の使用時間2時間以内を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の定着を図るため、「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習時間のめやす等を明示し、生徒が積極的に取り組める環境を整える。 ○各教科で計画的に家庭学習の課題を与え、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化のさらなる充実を図る。 ○通学や懇話会を利用して各家庭への啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科や学年で計画的に家庭学習の課題を与え、家庭への啓発を行った。それにより、家庭学習の習慣は、学年が上がるにつれて定着しつつある。また、今年度は家庭で過ごす時間が増加したことが、家庭学習に取り組む時間増加の一助となっているのではないかとされる。 ○家庭で過ごす時間が増加するにつれて、ゲームをしたりスマホを使用したりという時間も増える傾向にある。スマホの使用等については家庭でルール作りを行うように、今後も継続して啓発していく必要がある。 ○きめ細かな指導による基礎学力の定着と、わかるよるこびを実感できる機会をできるだけ多く持てる授業作りをしていくことが課題である。 	B
○学習相談・教育相談の充実		<ul style="list-style-type: none"> ○毎学期に教育相談週間を設ける。 ○学校評価アンケートにおいて、学習相談・教育相談に対する肯定的評価を昨年度より5ポイント向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査前に学習計画を立てさせ、効率的な学習方法を身に付けさせる。 ○テスト・週間前の放課後やノー部活デーの木曜日に学習相談を充実させ、基礎学力の向上に取り組む。 ○教育相談週間を実施し、学習や生活に関わる不安や悩みの解消に努め、個々の生徒理解を図る。 ○がんばりタイムの実施により、一人で課題に取り組むことが困難な生徒への支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談を学期ごとに行ってきたことにより、生徒の不安や悩みに対して早期対応できる環境を整えることができた。学校評価アンケートの教育相談の項目においても、生徒や保護者の高い肯定評価を得ている。 ○「ひょうごがんばりタイム」の活用と学習相談の取り組みにより、個々の学習支援が充実した。これらの取り組みを定着させることで、基礎学力の向上を図るとともに、一人で課題に取り組むことが困難な生徒への支援につなげていきたい。 ○今年度は実施できなかった、長期休業中の学習相談に取り組むことで、基礎基本のさらなる定着と学習意欲の向上を図る。 	A
○読書活動の充実		<ul style="list-style-type: none"> ○読書時間一日30分以上60%以上を達成する。 ○図書館の貸出冊数が生徒数×3冊以上を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会の図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、積極的な図書館の活用を進める。 ○テスト・週間前の放課後やノー部活デーの木曜日に学習相談を充実させ、基礎学力の向上に取り組む。 ○教科授業による調べ学習やビブリオバトル等の機会を設け、読書活動を推進する。 ○1、2年は朝の10分読書を継続して行い、読書習慣の定着を図る。 ○さんだっ読書通帳を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会の図書委員会を中心に、図書館の運営を行った。感染予防対策を講じながらの本の貸し出しということもあり、図書館の利用に制限があったので、本の貸出冊数が思うような感は否めない。今後は、図書ボランティアの積極的な活用を行いながら、環境整備や開館時間の延長に取り組み、読書活動を推進していく。 ○朝読書に取り組むことで、読書習慣をつけることに一定の成果が得られた。しかし、図書室利用の観点から、教科授業においては、調べ学習等の機会を継続して設定していく必要がある。 ○「さんだっ読書通帳」を有効活用して読書に一層励める環境を培っていくためには、小学校との連携が益々必要になってくる。 	B
○不登校支援の充実		<ul style="list-style-type: none"> ○不登校生徒や相談室生徒の割合を昨年度より低くする。 ○スクールカウンセラー等を活用した研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子どものサポーター等と連携し、保護者や地域と協働しつつ、学校に適切にくい生徒の学習を支援する。 ○スクールカウンセラー等の専門家を活用した研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、こどものサポーターと面談しやすい環境を醸成し、個々の生徒とのかかわりを深めた。また、必要に応じて関係機関との連携を円滑に行うことができた。 ○生徒指導委員会にスクールソーシャルワーカーが出席することにより、課題の共有を図るとともに、早期対応できる指導体制を構築することができた。 	B
○小学校および家庭・地域との連携推進		<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上・生活習慣改善についての小中連携の会議を年間3回以上実施する。 ○「学校評価」アンケートにおいて、「学校生活が楽しい」と答える生徒の割合が昨年度を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観を含めた学校園連携連絡会を開催し、9年間を見通した指導を推進する。 ○学習規律の小中で統一した指導を協議し、共通理解を図る。 ○入学説明会の日に、小学校6年生を対象に体験授業等を行う。 ○中学生の地域行事への参画、および地域貢献活動やボランティア活動を積極的に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観は自粛したが、学校園連携連絡会による情報交換や意見交換は、定例化して実施できた。そこで、11年間を見通した指導について協議し、共通理解を図った。 ○小学校6年生を対象とした体験授業を行うことはできなかった。しかし、それに代わる英語と学活の出前授業を実施したことで相互理解をし、それぞれの状況を把握することができた。今後は、児童会と生徒会の交流を活性化させ、入学してからの児童の不安解消に努めていきたい。 	A